

総務文教常任委員会審査概要報告書

委員長 筏井 哲治

- I 開催年月日 令和5年11月16日(木)
- II 会議時間 午後1時00分～午後1時46分
- III 出席委員等 [出席委員] ◎筏井 哲治 ○石須 大雄 山上 尊士
熊木 義城 酒井 善広 横田 誠二
藪中 一夫 水口 清志 大井 正樹
(◎…委員長 ○…副委員長)
- [議長] 中川加津代
- [副議長] ※酒井 善広副議長は委員として出席
- [説明員] 別紙名簿のとおり(長谷川総務部次長・総務課長が
病気療養のため、木村秘書課長が公務のため欠席)
- [委員外議員] なし
- [事務局職員] 笹島 永吉 高嶋 史恵 堀 泰平
- [傍聴者] なし

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、報告はなかった。 〉

2 その他

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

(以下、質疑・質問内容は○、答弁内容は△で表示)

【ふるさと納税について】

- ふるさと納税制度に関する総務省の基準が見直され、令和5年10月から地場産品基準の厳格化や、寄附金受領証の発行やサイト手数料などの付随費用も含めて寄附金額の5割以下とすることとされた。例えば愛知県小牧市では、返礼品の約6割で費用が寄附金額の5割を上回っていることが判明し、返礼品の見直しを迫られたという報道があったが、本市では、ふるさと納税に関する基準の変更に伴い、返礼品を見直すという動きはあったのか。
- △ 全国的に多くの自治体において、ふるさと納税に要する費用が寄附金額の5割を超えていたため、返礼品の内容や寄附金額の設定を変更するなどの見直しが行われ

ている。本市では、基準の見直し後も必要となる費用が寄附金額の5割を超えないため、今回の基準の見直しに伴う返礼品の内容等の変更は生じていない。

- 引き続き適切な運営を図るとともに、今後に向けて様々な取組を進めていただきたい。(要望)
- 返礼品として登録を受けるには、市の審査に加え、国の確認も必要となったが、現在、事業者から申請があった分に関しては、どのような状況になっているのか。
- △ 申請された分については、これまでも国に一覧表を提出しており、国の方から疑義のあったものに関して何度かやりとりを行っている。5年10月以降についても国の確認を得られたものを本市の返礼品として登録していく。
- 市に返礼品の登録申請を提出したものの、反応がないため登録することができなかったのではないかと心配されている事業者や市民の方がいると聞いている。全国の自治体から国に対して多数の登録確認申請がされており、回答までに時間がかかっているものと思われるが、ふるさと納税制度に変更があったことや、登録までにどれくらいの期間を要するかなど、申請者への情報提供に努めていただきたい。(要望)

【「子どもと親の相談員」活用事業について】

- 文部科学省指定の研究事業として、成美小学校において、「子どもと親の相談員」活用事業が令和5年度の継続事業となっているが、この事業の内容は。また、いつ頃から実施しているのか。
- △ 本事業は、平成18年から実施している。集団に適応することが難しい特定の子どもに対して、安心して学校生活を送ることができるように悩みや話を聞くなど個別の支援を行っている。また、子育てに悩みを抱える保護者に対しても相談員が寄り添い、安心して子育てができるように支援にあたっている。現在、教員のOBが相談員となり、1回あたり3時間半程度、年間に50回相談活動を実施している。相談員から寄せられる様々な情報を活かし、気になる子どもの状況について、学級担任、管理職、生徒指導担当者、スクールカウンセラーなどと共通理解を図っており、学校全体で支援する体制づくりに効果が出ていると感じている。
- 相談件数はどのくらいか。
- △ 本事業は、特定の子どもや保護者と面談して悩みや話を聞くなど、個別に横で付き添いながら支援している取組であり、年間50回、1日につき複数回、面談等の支援を行っている。
- 年々いじめや不登校が増加している中で、非常に大事な取組であると思うので、引き続き、きめ細やかに対応していただきたい。(要望)

【高岡市教育将来構想検討会議について】

- 令和5年度高岡市教育将来構想検討会議が先日開催されたが、この会議について報告はないのか。
- △ 5年10月17日の本委員会において、10月31日に第1回目を開催することを報告したが、現在、次回開催に向けて日程等を調整しているところであり、ある程度

内容が固まった段階で議会に改めて報告したい。

- 教育将来構想検討会議はどのような目的で開催しているのか。
- △ 今回の教育将来構想検討会議では、主にスポーツ施設のあり方に関して関係者から意見を聴取し、今後の基本的な取組方針について協議することを趣旨として開催している。
- 会議のメンバーは、竹平記念体育館の現状や凍結している総合体育館といった本市が抱える事情について、しっかりと認識して参加されているのか。
- △ 10月31日に開催した第1回目の会議では、各スポーツ施設の利用状況に加え、総合体育館の計画がひとまず止まっている段階にあることや、施設の老朽化、人口の減少といった本市の現状について十分に説明のうえ、今後のスポーツ施設のあり方について伺っていることから、各委員には会議の趣旨を理解していただいていると思っている。
- 総合体育館については、今後どのようになっていくのか、各議員の思い入れも強いと思われるので、しっかりと議論をしていただきたい。(要望)

【米国フォートウェーン市との国際交流を通じた成果について】

- 令和5年10月中旬に実施した米国フォートウェーン市への訪問については、市民だけでなく議員も非常に関心の高い事業である。未来創政会としては、市長には様々な成果を持ち帰っていただけたものと大いに期待している。今回の訪問に関しては、普段はあまり意見を言われない市民の方からも多くの意見を聞き、ポジティブな立場で返事をしてきた。新聞などでいろいろな報道があったが、教育関係の成果について伺いたい。
- △ 教育に関わることとしては、例えば本市の小中学生とフォートウェーン市の学生が英語を用いたビデオレター方式等での交流が挙げられる。この国際交流により、本市の子どもにとっては、英語を学び、使い、ビデオレター等で聞くことを通じて生の英語に直接触れる機会になるとともに、フォートウェーン市の子どもにとっては、本市の歴史、文化などを理解していただく機会につながるものと考えている。今後、時差の問題等を調整のうえ、具体化を図っていく。
- 成果はすぐに求められるものではないと思っており、徐々に現れてくれば良いと期待している。今後、具体化に向けてしっかりと対応していただきたい。(要望)

【高岡市地域おこし協力隊（地域交通ナビゲーター）の活動状況について】

- 万葉線株式会社がX（旧ツイッター）を活用してイベント、運行状況、最近では富山マラソン開催時に運休状況や代替バスの状況などについて情報発信しており、市民の方から非常に助かっているという声を聞き、一生懸命努力されていることに感謝したい。地域おこし協力隊に関して、以前は万葉線とタイアップして取り組んでいたが、新しい隊員による現在の活動状況は。
- △ 地域おこし協力隊について、以前は万葉線に特化した活動を実施していたが、令和5年8月から新たに隊員に就任した加藤木守（カトウギマモル）さんは、新幹線や高速バスなど他の公共交通機関も含め、活性化に関わる様々な取組を進めていた

だいているところである。万葉線に関しては、賛助組織である万葉線を愛する会の会員特典が受けられる協力店舗を新規開拓され、新たに5店舗の加入につながるなど、足をかけて活動していただいている。また、高速バスや公共交通を活かした話題づくりや新企画について、関係先との交渉も進めていただいているところである。5年11月から公開されているアニメ映画「駒田蒸留所へようこそ」の作品発表に合わせて、若鶴酒造株式会社と連携し、新高岡駅の改札から城端線へと向かう通路部分にポスタージャックを実施していただいている。今後ご本人の知見を活かして地域交通を盛り上げていただけるものと期待をしており、市としても精一杯バックアップしていきたい。

- 隊員に就任されて月日が経っていない中で精力的に活動していただいていることに感謝したい。議員としてもサポートさせていただきたい。

万葉線株式会社では、コロナ禍以前には12月の忘年会シーズンに向けて、運行便を少し遅らせることで利用者の足の確保に努めていただいていた。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、これから忘年会が開催されることで、たかまちの活性化につながると思っているが、現在のところ少し遅い時間帯の増便について聞いていない。公共交通に関しては、タクシーが少なくなってきた中で、市民が楽しんで、たかまちに繰り出せる環境をぜひ整えていただきたい。(要望)

- △ 万葉線株式会社では、毎週金曜日にシンデレラ便という遅い時間帯の運行便を設けており、週末の利用需要に対応している。今後、忘年会シーズンに向けて、市街地の活性化につながるダイヤの検討を求める声があることを万葉線株式会社へ伝えていきたい。

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔教育委員会〕

- (1) 市立学校のインフルエンザ等の発生状況について
- (2) 勝興寺国宝答申以降の勝興寺及び周辺施設の入場者数について

〈 委員から、次のとおり質疑があった。 〉

【市立学校のインフルエンザ等の発生状況について】

- 市で実施しているインフルエンザ予防接種費用の助成について、小中学生や保護者に周知しているのか。
- △ 県内でインフルエンザの感染拡大が始まった頃に、学校を通じて保護者や児童生徒へ周知を図ったところである。ぜひ予防接種を受けていただき、また、感染予防対策を徹底することで、子どもたちが安心して充実した学校生活を送れるように努めていきたい。

〔監査委員事務局〕

- 東海・近畿・北陸三地区共催都市監査事務研修会について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

【東海・近畿・北陸三地区共催都市監査事務研修会について】

- 本市では、24年ぶりの開催で、県内では12年前に富山市で開催されたとのことだが、開催都市はどのようにして決まるのか。
- △ 本研修会は東海、近畿、北陸の三地区で構成されており、北陸地区では3年ごとに開催している。北陸地区は新潟県、富山県、石川県、福井県の4県で構成しており、富山県では北陸地区に順番が廻ってきた時に4回に一度の頻度で開催しているが、県内10市の中では、富山市と高岡市が交互に開催している。
- 約570人が参加されたとのことだが、全国若手議員の会という超党派の団体に所属する、次期開催地である静岡の監査委員の方も参加されたと聞いている。多くの参加者が本市に来て、まちなかの活性化や経済効果につながったと思われるが、富山県で開催する際には開催都市に立候補することはできるか。
- △ 開催都市は先程の順番に従って決定されることから、立候補することは難しいと考える。
- 令和6年春には北陸新幹線の敦賀開業、また、同年秋には北陸デスティネーションキャンペーンという大型の観光キャンペーンを控えている。今回の研修会は多数の監査委員に本市を知っていただく貴重な機会になったと思われるが、どのように本市のPRに努めたのか。
- △ 高岡文化ホールの大ホールで研修会を開催したが、研修会の開始前に本市を紹介するDVDをスクリーンでリピート上映した。また、参加者にふるまわらん、ことりっぷなどの観光パンフレット、国宝勝興寺に関する報告書、高岡の水を1部ずつ配布した。さらに、小規模ではあるが、地元品のおみやげコーナーを設置した。
- 適正な監査の実施にあたっては、法律の専門的な知識や、決算審査では複式簿記の知識も求められる。事務局職員のさらなる知識の向上に向けて日頃取り組んでいることは。
- △ 各職員に対して積極的に監査事務に関する研修への参加・受講を勧めている。また、日頃から職員相互の意見交換を行い、市役所の内外で起きていることについて情報共有を図り、常に関心を持つようにしている。さらに、毎月実施している定例監査や例月出納検査の質疑応答で得られる知識を次回の予備監査業務に生かすように努めている。
- 適正な監査業務に向けて引き続き努力していただきたい。(要望)
令和6年の北陸新幹線の敦賀開業に向けて、各部局では本市のPRや様々なイベントを実施していくことになるとと思われる。多くの人々が本市に来て楽しんでいただけるよう、全部局が横断的に努力していただきたい。(要望)

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

総務文教常任委員会 当局説明員（25名）

未来政策部長 未来政策部政策監	鶴谷 俊幸	会計管理者 会計課長	柳原 隆
未来政策部次長 未来課長	日名田 尚明		
未来政策部次長 企画課長	新田 裕子	教育長	近藤 智久
情報政策課長	布橋 みちる	教育次長	杉森 芳昭
総合交通課長	表野 勝之	教育次長 学校教育課長・教育改革推進室長	岩田 正弘
秘書課長	木村 文徳	教育総務課長	津幡 佳成
広報発信課長	芹山 奈緒樹	生涯学習・スポーツ課長	澤田 剛章
		文化財保護活用課長	池守 凡子
総務部長 選挙管理委員会事務局長	梅崎 幸弘		
総務部次長	柴野 泰彦	監査委員事務局長	崎 安宏
総務部次長 財政課長	村上 彰		
総務部次長 総務課長	長谷川 聡		
人事課長	新保 貴之		
危機管理課長	橘 篤志		
管財契約課長	新田 泰弘		
市民税課長	加藤 康代		
資産税課長	山本 明宏		
納税課長	上口 裕之		